

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500020		
法人名	特定非営利活動法人ひなたぼっこ		
事業所名	そよかぜ		
所在地	中津川市高山1951番地43		
自己評価作成日	平成22年2月10日	評価結果市町村受理日	平成22年4月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2191500020&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成22年3月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

そよかぜの設立理念「いつまでも人としての尊厳が保持できるために」を基に選択の自由があり人権とプライバシーが確保され助け合う人間関係の中で行事、要望は入居する方々が日常的に話し合い相談する会「考えよまい会」により計画実行されています。そして一般生活に近い自由度の高い生活と運営への参加をめざしています。]

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営者・全職員と、利用者・家族もNPO法人の正規登録会員となっている。利用者職員は同じ法人の仲間として、互いに人権を尊重し、助け合う人間関係を大切にしている。併設している障がい者居宅支援施設の利用者とも、同じ思いを共有しながら交流している。法人は、きめ細かな運営を目指し、運営委員会・処遇委員会・食事委員会・防災委員会などを組織し、また、利用者の思いや意向を汲み取る「考えよまい会」があり、各会で把握した課題や気づきを運営に繋げている。管理者・職員は、自らの仕事に誇りと自信を持ち、アイデアを出し合いながら、利用者の暮らしが活動的で、自分らしく、自由な生き方ができるように、支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・住み慣れた地域の中で一人ひとりが安心して暮らすことが出来るよう事業所の理念を常に話し合う機会を設け月1回の運営委員会やスタッフ会議で共有し実践につなげている。	地域の人々と交流しながら、自分らしい暮らしができるように、利用者本位の理念を掲げ、毎日のスタッフ会議で、振り返り確認しながら実践している。互に助け合い、好ましい人間関係を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・事業所は地元の自治会に加入し常会・清掃活動・地域行事に参加し、利用者も含め産業祭・夏祭り等のイベントにも積極的に参加している。またそよかぜ通信も地域に回覧配布させてもらっている。	自治会に加入し、地域の各種行事や会合に参加している。また、地域の人が畑仕事を引き受けたり、ホームのイベントに招待するなど、日常的に交流している。地域防災委員会も組織され、住民との協力関係がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・広報活動を主とし年4回の「ひなたぼっこ通信」、月1回の「そよかぜ通信」を地域を始め会員に配布している。又地域の相談にも応じている。キャラバンメイトを受講した職員もいて地域の支援活動に生かしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月ごとに推進会議を開催し、毎回現状報告や取り組み等を報告し、有意義な意見交換も行なわれている。会議での意見は運営委員会に反映されサービスの向上に生かされている。また事業所の行事にも参加協力を得ている。	運営推進会議は、2ヶ月ごとに開催され、地域関係者や行政職員も参加している。事業運営上の課題や、法人が組織している各種委員会の取り組みについて討議し、結果をサービス向上に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・市との連携を大切にし常に協力関係を保っている。定期発行の通信を送付することにより取り組みを伝えている。市の介護相談員制度にも積極的に協力しサービスの向上に生かしている。	市の主催する職員研修に参加したり、介護相談員を3ヶ月毎に受け入れている。事業所の空き情報の提供、事故報告と運営課題を相談したり、デイサービス事業の開設に向けた相談でも指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・事業所として「身体拘束をしないケア」が徹底され玄関の施錠は当然の事としてしていない。スタッフ会議においては言葉の施錠について話し合い取り組んでいる。必要に応じ安全策としてコールマット等の使用もあるが家族の同意を得ている。	身体拘束をしない方針を掲げ、全職員が意義を周知し実践している。例外として、転倒の恐れのある利用者には、家族の同意を得て、居室入り口にコールマットを敷き出入りを把握している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	・関係職員は虐待防止関連の研修を受け資料を配布している。またスタッフ会議において常に状況の把握に努め虐待の見過ごがないよう努めている。		

岐阜県 グループホームそよかぜ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・しょうがい者権利条約の学習会等に参加し権利擁護の研修をしている。成年後見制度の学習は今後の課題であるが、必要性がある場合は関係者と連携をもつ様になっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約の締結や解約は利用者や家族に充分説明し理解納得を得ている。家族の疑問や不安には理解が得られるよう説明し納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・通信の発行、家族会の実施、意見箱の設置、介護相談員制度の活用、地域運営推進会議の充実等により意見を反映している。また利用者さんの意見は毎月の「考えよまい会」や日常の中で受止め反映している。	運営推進会議の場や、家族会などで家族の意見を聞き、運営委員会に図り、サービス改善に反映している。利用者の意見は、ホーム内に会を組織し、思いや希望が適えられるように支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員は全員運営委員となり運営委員会等において意見・提案が積極的に出す事ができ反映させている。また委員会以外においても自由に意見・提案を出す事が出来る。	毎月、運営委員会の場で、自由に意見を出す機会が設けられている。職員会議で出された課題や処遇問題を提起し、検討し、結論を得る仕組みができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・事業所内は同一賃金同一労働が基本であり、処遇委員会が設置され常に職員の意見が反映されている。やりがいや各自の向上心が持てる環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・スタッフ会議でのミニ学習、内部研修、救急法等の研修ならびに外部研修を受ける機会を確保している。研修委員会で計画を立て実施している。又各自の習熟度に応じて現場で働きながら技術や知識を身につけていけるよう支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・中津川市グループホーム部会、岐阜県グループホーム協議会、ケアマネ部会等で交流を行い向上に役立っている。また中津川医療・福祉ネットワークの活動を通じ介護の質の向上を目指した取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・本人に寄り添い話をよく聴き不安や要望に沿った支援に心掛け居場所、役割作りや不眠時の添い寝などにより安心され信頼関係も深まっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・事前面談にて家族の不安や要望に応じている。自由な訪問・訪問時の過ごし方の提供 家族会への参加による支援 小さな事にも密に連携をとり助け合う姿勢に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・家族が必要としている支援を見極め、通院へのお助け事業 疾病への配慮と対策等に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者の主体的生活を運営の方針とし介護をするされるの立場に立たず対等な人間関係を堅持することを運営委員会やスタッフ会議の中心課題としている。「考えよまい会」の充実によりひとり一人の思いを大切にし共に暮らしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・誕生会・敬老会・白寿を祝う会・夏祭りなどの参加により本人と家族のきずなを深め、常に家族と支えあう信頼関係に努めている。家族介護の困難さを理解し自由な訪問などゆっくり個室で過ごせる環境を整えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・馴染みの場所 祭り 左儀長 墓参り 運動会 喫茶店に出かけることにより馴染みの人や知人に会う機会が持てる。自由な訪問、面会により親戚友人とゆっくり過ごす事が出来る。	地元の利用者が多く、馴染みの行事や祭りなどに出かけ、知り合いと会える機会を支援している。同時に、家族同士の交流も進んでいる。ホームには、親戚、友人や馴染みのボランティアがよく訪問している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・「考えよまい会」の開催によりお互いの意見交流がありよりよい人間関係が出来つつある。お互いの居室に出向き和やかに過ごしたり、それぞれの出来る事(洗濯物干すたむ・食事の下準備・掃除等)を認め合い助け合う環境が出来てきた。		

岐阜県 グループホームそよかせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・契約終了後のご家族の行事・ボランティア・地域推進会議、望年会参加があり職員との交流もある。また法人への支援者でもある。通信の配布を含め相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・個々の思いや暮らし方の要望は「考えよまい会」を中心に深めている。行事等から昔の姿を回想することで意義ある生活に繋がっている。ささっとコーナーを設けて個々の小さな思いや希望・困難な方のシグナルや表情をキャッチする観察力を高めるよう努めている。	利用者の思いや意向の把握は、事業所内に「考えよまい会」を設け、独自の仕組みで対応している。個々の生活歴や経験、暮らし振りなどから、思いや意向の把握に努め、全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・利用者の生活歴、既往症など利用者の歩んできた暮らしぶりを職員は把握し、晩酌・手仕事・自室でのテレビ音楽鑑賞・お出かけなどひとり一人の暮らし方を大切にしている。ご家族の協力により畑での野菜の収穫も体験できた。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎朝のミーティングにおいて個々の心身状態を把握すると同時に思いや出来る事を検討し実践している。1日のマニュアルは無く利用者の顔・天候・声に添った過ごし方に努めている。出来たこと・見落とししていた事などささっとコーナーが活用されている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・介護計画はアセスメントやモニタリングを繰り返し複数の担当者・家族・本人で話し合いスタッフ会議において再検討し全職員で共有している。基本的には三ヶ月ごとに見直しをしている。	職員会議で、個々の状態を検討し、アイデアを出しながら、本人・家族、医師などの関係者と話し合っ、介護計画を作成している。また、3ヶ月毎の定期見直しと、心身状態の変化により、随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・個人記録・実施記録が活かした資料として介護の実践に反映されている。スタッフの気付きが「ささっとコーナー」から反映され介護計画に活かされている。スタッフの気付きや実践が記録されやすいよう記録用紙の改善を行なった。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・帰宅・家族宿泊・家族旅行・行事への家族同伴など柔軟に対応している。自主事業の助け合い事業の通院等の利用が増えてきた。		

岐阜県 グループホームそよかぜ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・喫茶店・買い物・理髪、畑仕事、話し相手等定期的ボラの参加により豊かな暮らしが楽しめている。消防署の指導を得て避難訓練と救命救急講習の実施。自治会の回覧を通じてサロン・産業祭・歌舞伎などへ参加、交流をもった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・本人や家族の要望にそって入所前のかかりつけ医の定期的受診や往診の支援をしている。状態変化があったときははやめに嘱託医と連絡をとり処置をあおいでいる。	家族の合意の上で、協力医より月1回、全ての利用者が往診を受けている。必要に応じて、入居前のかかりつけ医にも受診している。協力医とは24時間の連絡体制があり、必要な指示を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・職員に看護師資格者あり、状態変化を報告し、個々の健康管理、投薬管理、緊急時の対応などの支援にあたっている。又疾病や緊急時対応など医療機関との連携を密に行ない適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・職員は本人及び家族に対し早期退院に向け励ましている。施設医や看護師、ケアマネを通じて病院関係者との情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・入所時、重度化、終末期について家族・本人の考え方を聞いている。重度化が進んでいる中、状態変化がみられる場合家族に連絡している。終末期には家族、かかりつけ医とともに嘱託医、職員も話し合いを重ね希望に沿う方向で検討している。	入居時に、家族の希望、事業所の考えを説明し、さらに重度化の段階毎に話し合いが行われている。終末期の自然な看取りを自宅に移した事例があるが、個別の状態に応じた対応となっている。	事業所のできる範囲や、課題などを整理し、家族に説明する書式化を準備中であり、その取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・体調変化を見逃さない「いつもと違う」気付きに努めている。・救命応急処置(BLD)AEDの使用方法は定期的に訓練している。・急変時、事故発生時のマニュアルが整備されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・防災委員会が防災計画を立て全職員対象で定期的に昼間、夜間の避難訓練を実施し防災ビデオを見て学習も行っている。災害時、停電時に備えて水、飲料水、レトルト食品を準備し数か月毎に点検している。防災グッズを確保しつつある。	年4回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。避難経路と避難場所を定め、職員の緊急招集も組み込んでいる。防災委員会を設立し、年間訓練計画を立て、地域との協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・日常生活の中、相手の立場や気持ちに配慮した声掛けや行動に心がけ、スタッフ会議や運営委員会で議論を重ね徹底されている。プライバシー確保に関わる点検はスタッフ会議で具体的事例で検討され共有している。	人権とプライバシーの確保は理念にも掲げ、毎日のミーティングのテーマとして取り組んでいる。言葉掛け、トイレ誘導、同姓介助、入室での振舞いなどに気配りをし、全職員で共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・事業所の理念として自己決定を掲げており本年度重要課題である主体的生活の展望にもとずき考えよまい会が毎月開かれ日常的にも考えが出されるようになり相談、決定、実行されている。職員研修を行い自己決定を支援することを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・起床、就寝時間は自由で日中の過ごし方等一人ひとりの一日のペースができています。日々の予定や規制はなくやりたいことが自由にできています。思いを聞き取りそれぞれの人のやりたいことや希望にそった過ごし方の支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・起床時の洗面、整容、衣類を選ぶなど時に助言もしながら気持ちよく生活していただくことを心がけている。ボランティアの床屋さんによる散髪は皆さんとても喜んでみえる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・日常の食事は食事委員会にそれぞれの好み、声が反映され献立が作られている。郷土料理は個々のできることを一緒にすることにより主体的に役割ができ楽しく参加されている。	事業所内に、食事委員会を設け、利用者個々の好みや地元行事で振舞う郷土料理などを聴き取り、献立に採り入れている。職員も一緒に食事を摂り、山菜料理、ほう葉寿司、五平餅、おはぎなどの郷土料理の話題で盛り上げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・毎食の食事量、水分量を個々にチェック記入して把握し健康管理につながっている。、少ない方は容器を変えたりロミをつけるなど工夫している。個々の習慣、疾病(糖尿病)について学習し材料等工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・食後個々に援助し、自分ではみがきされる方へは声掛け支援している。毎食後の口腔ケアの他に必要に応じ舌苔除去をおこなっている。、週2回入れ歯洗浄剤を使用し清潔の保持をしている。必要に応じ歯科医受診をすすめている。		

岐阜県 グループホームそよかせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・個々の排泄パターンをチェック表にて把握している。排泄の訴えの無い人もシグナルを見逃さずトイレ排泄の習慣に努めている。入所時昼夜おむつ使用の方も、リハビリパンツ、又は普通の布パンツにパット使用で十分対応できトイレ排泄となった。	個々の排泄表に基づき、さり気ないトイレ排泄に誘導し、オムツの使用量を減らしている。利用者個々のサインを把握することで、入居時の状態からは、大幅な自立の改善に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・食事における工夫を多く取り入れ水分摂取の機会を増やしチェック表で把握し、生活リハビリとしての運動を取り入れ、一人ひとりの排便チェック表による排便リズムの把握と毎日の排便の確認により便秘予防と対策をとっている。食後などにトイレに座ってもらい自然排便も促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・本人の希望を聞き無理強いせず、入浴習慣、ペースに合わせている。入浴中は会話や歌ったり急ぐことなくゆったりと楽しく入浴できるようにしている。個別入浴と同性介助により羞恥心に配慮している。身体状況にあわせ本人の意思によりリフトを使い安心安全な入浴を心がけている。	入浴は毎日、時間を決めずに、利用者が自由に選択できるように設定している。入浴嫌いの人は無く、浴槽に入るのが難儀な人は福祉用具を使い支援しており、檜の浴槽と窓越しの風景が喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・個々の生活習慣に合わせた自由な生活と睡眠状況や健康状態を把握して休息や起床・就寝へ配慮している。不眠時は自然なリズムが生まれるよう日中の活性化や不安や寂しさなど気持ちに寄り添う援助を心掛け眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬の目的や副作用、用法や用量について理解し健康状態を把握し症状の変化には医師の指示により服薬表への記載・申し送り周知をはかる。配薬、服薬時の確認、チェック表の記入を複数の職員で行い誤薬の防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・「考えよまい会」では行事などを皆で話し合い風習や由来ややり方など記憶を辿り思いを巡らせ実践している。生活の中で個々の出来る事を見つけ、家事や会での司会など力を発揮し役割をもって生活されている。希望により飲酒を楽しまれる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・買物やドライブ、野菜畑、自宅、地域行事などの外出に家族やボランティア地域の方の協力を得ている。馴染みの場所に出かけ顔見知りや地域の人と交流が出来ている。初詣や墓参り、地域の祭り、左義長など本人の希望や気持ちを汲みとりでかけている。	ホーム周辺は交通量も少なく、馴染みの山並みが見える散歩コースを定め、日常的に出かけている。年計画では、地域の行事や温泉、花見、観光地などに家族やボランティアの協力を得ながら出かけている。	

岐阜県 グループホームそよかせ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・お金は自己管理が出来る人や希望があれば家族と相談の上、財布を持ち現金を所持している。外出時には財布を持参し自由に買物を楽しんでいる。出納帳により預かり金の管理を行い家族に確認してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・届いた手紙に本人自筆にて返事をだされている。本人希望により個別に読んだりあて名書きを支援している。電話はいつでも自由にかけることができる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・玄関周りなど木造の作りは自宅と同じような雰囲気でないみやすくなっている。空調は自然に近い工夫がされ全館温度調整を状況に合わせている。フロアからは外の景色が眺められ冬期はこたつを設置し好みの場所でくつろげるようになっている。写真等掲示物を一人ひとりにあわせながらし暖かい空間を作っている。	木のぬくもりが感じられる癒しの空間を備えている。くつろげる広い居間とベランダからは、恵那山が見えている。床から温風が噴出する独自の空調設備があり、快適な温度・湿度である。季節の草花や絵画、手作りの作品を飾り、生活感を出すよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・食事時は自分の好きな席で食べたりお互いに声を掛け合い、誘いあってこたつでは談笑したりくつろがれている。たたみコーナーで休まれたり自由にすごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・整理ダンス・鏡台・テーブル・コタツ・座布団等自宅で使っていた馴染みの家具を持ち込み、花瓶・写真など思い出の品々で飾られその人らしい居室になっている。居室は畳とフロアがあり選ぶことが出来る。ベットの使用や位置も自由に選ぶことが出来る。	居室にベッドが置いてあっても、ゆとりの空間が確保され、利用者の希望で、畳の選択ができる。壁面は柔らかな白色系で、癒し感があり、馴染みの品々も、適度に配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・玄関に昇降機をつけ状態に合わせて安全に移動できるようになっている。重度化に伴い必要個所に手すりを増設した。居室に洗面コーナーがあり洗面、化粧を自由にされている。トイレが4か所あり各居室から近く混乱を防ぎ夜間も利用しやすくなっている。		